

## 受け継がれる魂。

伝統芸能を守り続けた前田家。今も魂を受け継ぐ前田益夫さんの想いに迫ります。

昭和47年6月に竹間沢車人形に魂を灯した、4代目座元の前田益夫さん。15歳ごろから里神楽をはじめ、郷土芸能は身近な存在だったと言います。

「貝を砕いて溶かし、それを

里神楽の面に何度も塗って乾かす父の姿が、今も目に焼き付いています。前田家は代々、手先が器用。父は喋りながら、あつという間に面を彫ってしまっほどでした」と父が作った神楽面

を手にし、ほほ笑む益夫さん。

「埼玉県指定有形民俗文化財と三芳町指定無形民俗文化財に指定されているので、今は粗雑に扱えませんが、昔は車人形の首を使って人を脅かしたり、口

クロ車に乗って遊んでいました」と子どものころを振り返ります。

車人形の道具は、全て前田家の手作り。「首や手足は初代の左近、二代目座元の民部が作ったと聞いています。人形の衣装

人形の腕に見える「信」の文字。2代目座元の信忠（芸名：民部）さんが作った証が残る。



1 2



3



4 5



6 7

1前田さんが操る車人形。2コピスみよし公演前の様子。345資料館まつりの夜神楽。元締として皮師（鳴り物）を鳴らす。タイミングを見ながら、演者と息の合った最高の舞台を演出する。6埼玉県知事が視察に。地元竹間沢小学校の児童（当時）が知事にコツを伝授。7車人形の肝であるロクロ車を手にする前田さん。先祖が大切に守り続けた伝統芸能を愛してやまない。



## 一人でも多く感動してもらいたい

も人形師が作りました。今も当時のまま使えるのは、修繕をこまめに行っているからにほかなりません。受け継がれた伝統芸能を守ることが使命だと思っています。

## ふるさと三芳町

三芳町が世界に誇れる伝統芸能の里神楽と車人形。しかし地方公演を行うと、三芳町の認知度の低さを感じるという。三芳町が埼玉県にあることも知らない人がたくさんいます。ふるさと三芳町をもっと多くの

人にも知ってもらうためには、里神楽や車人形の公演をいろんなところで行い、三芳町と伝統芸能を知ってほしいと思います」と語る益夫さん。

一方、三芳町に住んでいる人も町の伝統芸能を知らない人はまだまだ多いため、地域で積極的に公演活動を行っています。「町内の小中学校や図書館などで車人形の公演をし、実演体験も行っています。身近なところに、ふるさとの伝統芸能があることを知り、ふれることで愛着と興味を持ってもらえればと思っています。その中から、コピスみよしの公演を観に来てくれたり、将来、人形遣いやスタッフになってももらえればよいので



1



2

1図書館での車人形公演の体験コーナーで人形に触れる子ども。「楽しかった」と笑顔を見せた2人形師の操作を稽古で伝授。ふるさとの伝統芸能を守るためには、地域の子どもたちに関わりを持ってもらうことが重要だ3コピスみよしの体験コーナー。飛び入りで子どもが人形遣いに。



3

相代々の魂を受け継ぎ、伝統芸能を守り続けていきたい」。

三芳町に残る貴重な伝統芸能。今なお残り、楽しむことができるのは、ふるさとを愛し、魂を受け継ぐ人たちがいるからにほかなりません。



1



1 2013年のコピスみよし本番前日の通しリハーサル後に撮影。保存会の皆さんと関係者。2三芳町歴史民俗資料館には首やロクロ車など貴重な資料を観ることができる。3公演では、前田益夫さんが車人形の解説を行う。

～埼玉県芸術文化祭 2017 地域文化事業～

復活公演から45周年。  
再び魂が人形に宿る。

第16回 竹間沢車人形公演

12月3日 日

13:00 開場 / 13:30 開演

演目

ひたき 日滝の笛  
つばきかかれいげんき 壺坂靈験記  
寿式三番叟 車人形教室

出演

竹間沢車人形保存 / 三代目若松若太夫（説教師）  
宝井梅福（講談） / 上富囃子保存会 / 応募参加者

会場

三芳町文化会館 コピスみよし ホール

料金

大人1000円 小・中学生300円（全席自由）  
※未就学児の同伴、入場はご遠慮ください。

チケット取り扱い

コピスみよし ☎ 049-259-3211  
歴史民俗資料館 ☎ 049-258-6655

